

HTML TIPS & TRICKS

第 12 回

誰よりも早く 最新のHTMLを使ってみよう

藤井幸孝 白畑真

IE4.0も多くのユーザーが使用しはじめた。いよいよ本格的にダイナミックHTMLが流行しそうだ。今後ダイナミックHTMLはアプリケーション開発にも重要な役割を担うという。どんどん複雑になっていくHTMLだが、ここでは誰にでもできるTIPSを紹介していくつもりだ。今月もすぐに使えるダイナミックHTMLからJavaスクリプトまで、新しもの好きのウェブページ作成者が唸るTIPSとTRICKをお届けする。

このコーナーを楽しむために

最新のHTMLを使う際に、どうしても避けて通れないのがWWWブラウザの互換性の問題だ。そこでこのコーナーでは、TIPSごとにブラウザの対応状況をアイコンで表している(11月10日現在)。これを参考に使用するWWWブラウザを選んでほしい。



インターネットエクスプローラ3.0以上



インターネットエクスプローラ4.0以上



ネットスケープナビゲーター3.0以上



ネットスケープナビゲーター4.0以上



12月号「HTMLパズルに挑戦しよう」の解答

残念なことに解答を送ってくれた人が少なかった。レイヤー機能は高度なテクニックだったのだろうか、それとも単に人気がないだけなのだろうか。いずれにせよ、これから流行しだすTIPSには違いない。今から習得しておけば、誰よりも早く先端のページを作ることができるぞ。それでは「レイヤーを制する」の解答を発表しよう。



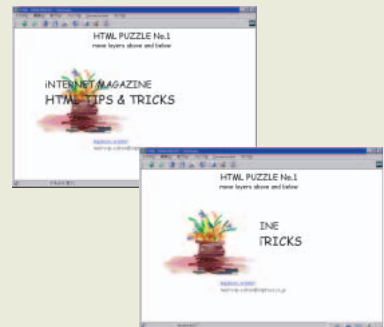
ANSWER ① レイヤーを前面に表示させる!

レイヤーを前にしたり後ろにしたりするには、JavaScriptの「moveAbove」、「moveBelow」を使う。「document.layers["back"].moveAbove(document.layers["fore"]);」は、「back」というレイヤーを「fore」というレイヤーの前に出すという意味になる。あとはこのスクリプトを「onMouseOver」で呼び出すだけだ。

```
<SCRIPT>
function foreLayer() { document.layers["back"].moveAbove(document.layers["fore"]);}
function backLayer() { document.layers["back"].moveBelow(document.layers["fore"]);}
</SCRIPT>

<LAYER NAME="back" TOP=100 LEFT=64>画像</LAYER>
<LAYER NAME="fore" TOP=160 LEFT=100>文字</LAYER>

<A HREF=javascript:/" onMouseOver="foreLayer()" onMouseOut="backLayer();" >
img above, or below</A>
```



正解者の方々：米澤慎一郎さん、川田哲さん、ほか



ANSWER ② レイヤーを使ってウェブページを表示させる!

レイヤーの中身を特定のウェブページにするには、やはりJavaScriptで「document.layers["quote"].src = "http://www.impress.co.jp/"」とすればいい。これはレイヤーで表示するものを指定したURLにする、という意味だ。模範解答では、アンカーでURLを指定し、そのURLを引数にとる関数「quoteLayer」を作って汎用性を持たせてみた。

```
<SCRIPT>
function quoteLayer(srcurl) { document.layers["quote"].src = srcurl;}
</SCRIPT>

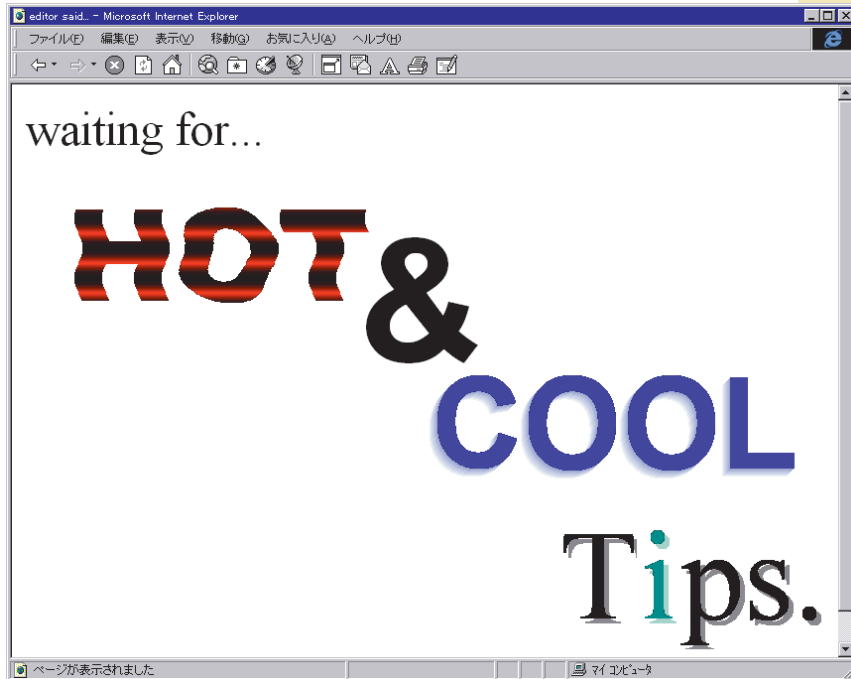
<LAYER NAME="quote" TOP=160 LEFT=120 WIDTH="480" HEIGHT="400"
BGCOLOR="antiquewhite"></LAYER>

<A HREF="JavaScript:quoteLayer("http://www.impress.co.jp/")">
quote another page</A>
```



正解者の方々：川田哲さん、ほか

文字にフィルターをかける



ウェブページを作成するときに文字に特殊な効果を与えたい。今までそんな場面では、フォトタッチソフトなどを使って画像ファイルを作成し、その画像を表示させる方法しかなかった。しかし、これまで何度も書いてきたように画像を使うとどうしてもダウンロードに時間がかかってしまう。作成者から見ても、膨大な手間が画像作成にかかってしまう。その問題を解決してくれるのが今回紹介するTIPSだ。このTIPSを使えば画像を使わなくても簡単に文字に特殊効果を与えることができるのだ。ページの見出し文字に使えば軽くてしかも目を引くようなページができるぞ。では早速このTIPSを紹介しよう。



```
<SPAN STYLE="WIDTH: 580; HEIGHT: 96; FONT-SIZE: 96pt; font-family: arial black; color: red; Filter: Wave(Add=0, Freq=2, Lightstrength=5, Phase=55, Strength=8)">HOT</SPAN>
```

```
<SPAN STYLE="WIDTH: 380; HEIGHT: 36; FONT-SIZE: 96pt; font-family: Arial; font-weight: bold; color: #0000FF; Filter: Shadow(Color=#9EAFE9, Direction=225)">COOL</SPAN>
```

```
<SPAN STYLE="WIDTH: 25; HEIGHT: 30; FONT-SIZE: 96PT; COLOR: #000000; FILTER: DROPSHADOW(COLOR=#808080, OFFX=5, OFFY=5, POSITIVE=1)">T</SPAN>
```

Point

タグで囲まれた文字列にフィルターをかけるTIPSを先月紹介した。今回紹介するTIPSもフィルターを使って上の画面のように特殊効果をほどこすのだ。今回紹介するフィルターは「Shadow」、「Drop Shadow」、「Wave」の3種類である。

```
Filter: Wave(Add=0, Freq=2, LightStrength=5, Phase=25, Strength=8)
```

「Wave」は画面の「HOT」のように、波を打った効果を文字列に与えるフィルターだ。「Add」が1の場合効果を与えた文字列の上に元の文字列を表示させ、0の場合には効果を与えた文字列のみを表示する。「Freq=2」は波の数の指定だ。数が多いほど波が細くなる。「LightStrength=5」は波の明暗を指定するもの

だ。「Phase=25」は波の始まりを指定するもので、値は0から100までのパーセンテージで表す。この値は角度に依存していて、25の場合は山から、75の場合は谷から始まる。最後に「Strength=8」であるが、これは波の大きさを指定するパラメータだ。値が大きすぎると原形をどめないものになってしまうので気を付けよう。

```
Filter: Shadow(Color=#9EAFE9, Direction=225)
```

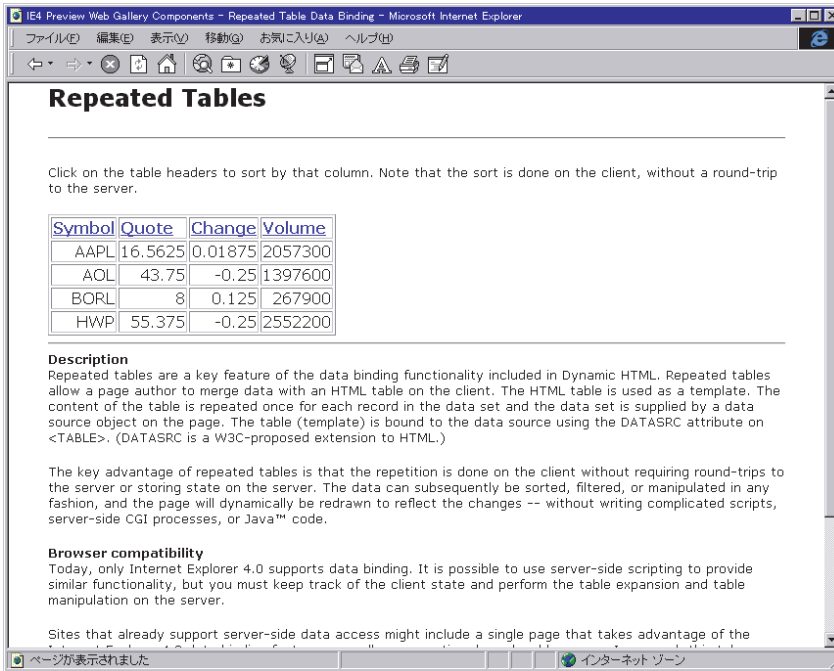
「Shadow」を指定すると、画面の「Cool」のように尾を引いた効果が得られる。「Color=#9EAFE9」は尾の色を16進数で指定している。「Direction=225」は尾が伸びる方向を角度で指定している。角度は真上を0度として時計回りに大きくなる。ここでは225度、すなわち

左斜め下の方向に尾が伸びるように指定している。

```
Filter: DropShadow(Color=#808080, OffX=5, OffY=5, Positive=1)
```

「DropShadow」は画面の「Tips」のように影が付く効果を与える。「Color=#808080」は影の色を16進数で指定している。「OffX=5」と「OffY=5」は影の位置を指定するのに用い、それぞれ文字列からの下方右方向の距離を表している。数字は影を付ける文字列からの相対距離を指定している。「Positive」が0の場合影が透明になり、1の場合には不透明になる。ここまで理解できたら、今度は自分で作る番だ。試してみてください。

表を自動的に作成する



URL <http://www.microsoft.com/gallery/files/html/repeat.htm>



```
<OBJECT ID="QUOTELIST"
  CLASSID="CLSID:333C7BC4-460F-11D0-
  BC04-0080C7055A83"
  ALIGN="BASELINE" BORDER="0"
  WIDTH="0" HEIGHT="0">
<PARAM NAME="DATAURL" VALUE="QUOTES.TXT">
<PARAM NAME="USEHEADER" VALUE="TRUE">
</OBJECT>
```

```
<TABLE BORDER="1" ID="ELEM_TBL"
  DATASRC="#QUOTELIST">
<THEAD><TR>
  <TD>Symbol</TD>
  <TD>Quote</TD>
  <TD>Change</TD>
  <TD>Volume</TD>
</TR></THEAD>
<TBODY><TR>
  <TD><DIV DATAFLD="Symbol"></DIV></TD>
  <TD><DIV DATAFLD="Quote"></DIV></TD>
  <TD><DIV DATAFLD="Change"></DIV></TD>
  <TD><DIV DATAFLD="Volume"></DIV></TD>
</TR></TBODY>
</TABLE>
```

表組みをHTMLで作成するのは非常に手間がかかる。最近では、HTMLエディターを使って簡単に作成できないこともないが、表の中の値が変わるとその都度HTMLを書き換えなければならない。そんな手間を省く方法として、CGIアプリケーションによって自動的に表の値を変える方法があるが、アプリケーションの作成に手間がかかる。今回紹介するTIPSはそんな問題を解決してくれるものだ。右の画面の表組みは、テキストファイルのデータを読み込みHTMLだけで自動的に表組みにしたものだ。これはテキストファイルを書き換えるだけで表の値を変更できるすぐれものだ。

POINT

このTIPSでは表のデータをコントロールするために<OBJECT>タグを使用する。またデータファイルとして、表の列に表示されるのと同じ順番で、データフィールド名とデータをカンマで区切ったテキストファイルが必要だ。これはExcelやAccessで保存するとき、ファイルタイプをCSV（カンマ区切りファイル）にすれば簡単に作成できる。では早速内容を見ていこう。

```
<OBJECT ID="QUOTELIST"
  CLASSID="CLSID:333C7BC4-460F-
  11D0-BC04-0080C7055A83"
  ALIGN="BASELINE" BORDER="0"
  WIDTH="0" HEIGHT="0">
```

まず「ID=QUOTELIST」と名前を付けて、このコントロールを参照できるようにしている。この

ときの「CLASSID」はとても重要な値だ。例で挙げた値とまったく同じものを入力してほしい。

```
<PARAM NAME="DATAURL"
  VALUE="QUOTES.TXT">
```

「NAME="DATAURL"」で表組みにデータファイルを使うことを宣言する。「VALUE="QUOTES.TXT"」は表のデータファイル「QUOTES.TXT」を指定している。

```
<TABLE BORDER="1" ID="ELEM_TBL"
  DATASRC="#QUOTELIST">
```

<TABLE>タグに<OBJECT>タグで指定したIDを「DATASRC="#QUOTELIST"」と追加することで、指定したデータファイルを表のデータと

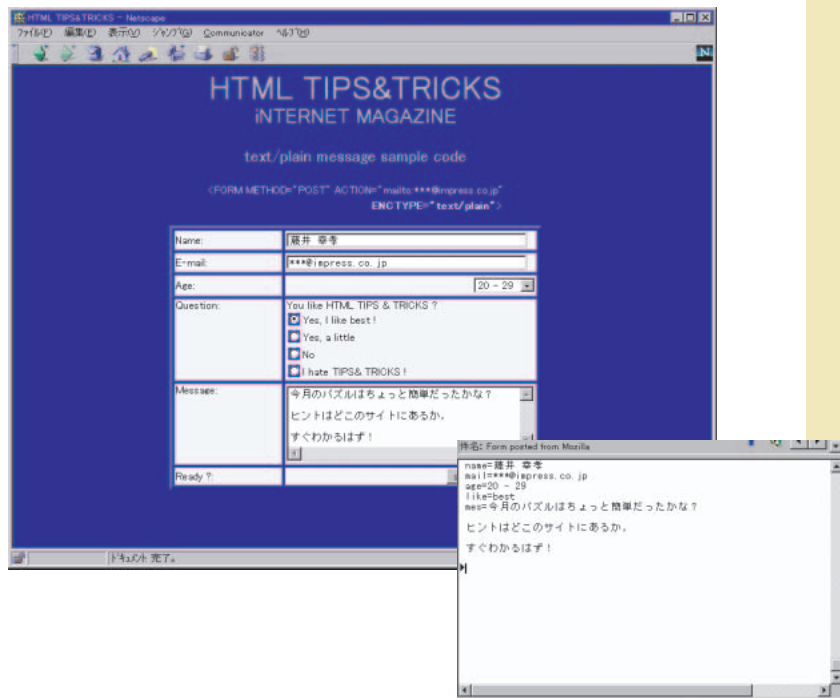
して読み込めるようにしている。また、<THEAD>タグでヘッダーを、<TBODY>タグで表組みの中に入るデータ部分を記述する。

```
<TD><DIV
  DATAFLD="Symbol"></DIV></TD>
```

「DATAFLD="symbol"」はデータファイルに記述された「symbol」というデータフィールドを指定している。これによってデータファイルに書かれたデータフィールド「symbol」のデータが表組みの列に入力される。

たったこれだけでテキストデータから表が自動的にできてしまう。ちょっと難しいかもしれないが、理解できたら早速チャレンジだ。

URLエンコードされていないメッセージを受け取る



<FORM>タグを使って、ウェブページ上でアンケートを採ったりコメントをもらったりしたい。こんな場面はホームページを作っているなら誰も思うことだろう。しかしプロバイダーによってはCGIプログラムが使えないことがある。こんなとき便利なのが、フォームの中身を直接メールで受け取る方法だ。ただ直接メールで受け取るようにすると、メッセージはURLエンコードという方式で変換されているので、そのままでは日本語の部分がまったく読めない。そこで、このTIPSでは、HTMLを使ったURLエンコードデータを簡単に読める方法を伝授しよう。こんな解決法もあったのかと驚くはずだ。



```
<FORM ACTION="mailto:ip-enq@impress.co.jp"
METHOD="POST" ENCTYPE="text/plain">
```

POINT

フォームの内容をCGIで受け取ろうとすると、通常<FORM>タグはこんな風に書く。

```
<FORM ACTION=".../cgi-bin/sample.cgi"
METHOD="POST">
```

「ACTION」は、<FORM> ~ </FORM>で括られた中のデータを「sample.cgi」というスクリプトプログラム宛に送信しろという意味だ。この方法で送信すると、データは「URLエンコード」という方式に変換されてひと目では意味が分からないような文字列に変換され、sample.cgiというスクリプトに渡される。CGIアプリケーションの作者は、そのアプリケーションの中にURLエンコード形式のデータを再変換して普通のテキスト(プレーンテキスト)に戻すような機能を組み込むようにしているので、意味のあるデータを取

り出せる。

では、CGIではなくてメールアドレス宛にデータを送信させるにはどうするか。

```
<FORM ACTION="mailto:ip-cdrom@
impress.co.jp" METHOD="POST">
```

「ACTION」部分を「mailto:メールアドレス」とすることによって、受信先をCGIスクリプトからメールアドレスに変えればよい。このようにすれば、CGIの利用を許していないプロバイダーでも問題なくフォームのデータが送信できる。ただし欠点もある。ユーザが事前にブラウザで自分のメールを使えるように設定していなければ、データをメールで送ることはできない。この方法によって受信されたデータは、やはりURLエンコード方式に変換されている。デコード機能のあるメー

ルソフト(Becky!など)や、専用のデコードツールを使わないと日本語メッセージを解読できない。そこで出てくるのが「ENCTYPE」オプションだ。「encode type」の略で、送信データの変換形式を指定することができる。これを利用するのだ。

```
ENCTYPE="text/plain"
```

「text/plain」と指定しておけば、メッセージはプレーンテキスト(普通のテキスト)として送られてくるので、URLエンコードのデコード機能を持っていないメールソフトでもそのまま読めるというわけだ。

この機能を使えば簡単にアンケートページが作れる。ブラウザーに表示されることのない、地味なTIPSだが、試してみる価値はあるぞ。

ドラッグアンドドロップで文字列を出現させる



今月もネットスケープ社によるサンプルコードを使ったTIPSを1つ紹介しよう。同社サイトで「ANOTHER DRAG AND DROP COMPONENT」として公開されているものだ。ダイナミックHTMLが流行してから、文字や画像をドラッグできるページはそれほど珍しくはなくなっているが、このコードを使うと、なんとドラッグすることによって新しい文字列を表示させることができるのだ！左の画面の文字列は、すべて「Try to drag me!」をクリックして生成させた文字列をちりばめたものだ。これを読んだら早速ネットスケープ社のサイトに行き、サンプルコードを取得してこよう。インタラクティブなページがまた1つ作れるぞ。

URL <http://www.hh.ij4u.or.jp/yujifuru/dhtml/sample/dragcloner.html>

サンプルコード入手先

URL <http://developer.netscape.com/library/examples/index.html> Dynamic HTML ANOTHER DRAG AND DROP COMPONENT View Example



```
<SCRIPT LANGUAGE=javascript1.2 SRC=dragcloner.js></SCRIPT>
<SCRIPT LANGUAGE=javascript1.2 >
var d= new DragCloner(100,100, "First String", "New String");

var num=2;

d.ondown=function (cloner,clone) {
cloner.html="New String Number"+num;
num++;
}
</SCRIPT>
```

Point

このTIPSを使うにはネットスケープ社にあるJavaスクリプトファイルが必要だ。まずはこれを手に入れよう。上記のサンプルコード入手先のURLからリンクをたどって、「ANOTHER DRAG AND DROP COMPONENT」の解説コーナーまで進もう。サンプルコード入手先のURLに行ったら左のフレームの「Dynamic HTML」をクリックし、右にサンプルのリストが並ぶので、その中から探してほしい。たどりついたら、そのページ(右のフレーム)の一番下の部分へ移動だ。そこに「The source for this component can be found here.」とある。「here」の部分がリンクになっている。必要なJavaスクリプトのソースコードが置かれている。このファイルを手に入れて欲しい。手に入れたらファイル名を「dragcloner.js」という名前で保存する。これで準備は完了だ。さて、ここまで準備ができたなら、本題のHTMLの

解説をしていこう。

まずヘッダー部分で、先ほど作成したdragcloner.jsファイルを参照するように書く。

```
<SCRIPT LANGUAGE=javascript1.2
SRC=dragcloner.js></SCRIPT>
```

続いて、dragcloner.js内で作られている関数を呼び出す準備をしておく。

```
var d= new DragCloner(100,100,
"First String", "New String");
```

これは一例だが、上から100、左から100の位置に、ページが開かれた時点で「First String」という文字列を表示し、さらに表示された文字列「First String」を1回ドラッグすると「New

String」という文字をドラッグした場所に生成することを意味している。

```
d.ondown=function (cloner,clone) {
cloner.html="New String Number"+num;
num++;
}
```

2回目以降にドラッグして生成される文字列は、残りの部分で指定している。ここでは「num」という変数を利用して、「New String Number X」とだんだん数字が増えてくるようになっている。つまらないと思ったら、if文などを使って、「clone.html」の値を変化させてやればさらに凝ったものができるぞ。

HTMLパズルに挑戦しよう

隠されたトリックを解き明かせ！



今月のテーマ

● IE4.0のダイナミックHTMLを制する●

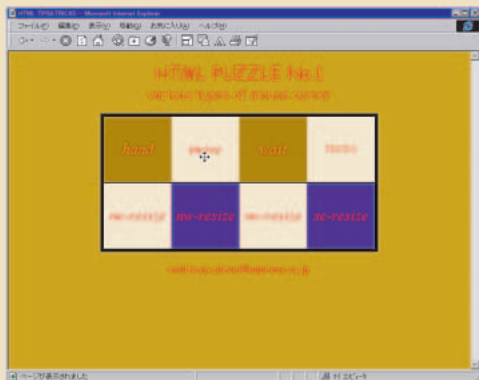
これまでダイナミックHTMLといえば、ネットスケープの専売特許だった。ところがIEも正式リリースされダイナミックHTMLの機能を充実させ始めた。ネットスケープのダイナミックHTMLとは違い、IE4.0のダイナミックHTMLは、スタイルシートを拡張したものになっている。今後はこれがウェブページやウェブアプリケーションを作成するうえで重要な位置を占めるだろう。そこで、今月は、この「ダイナミックHTML」に挑戦していただく。トリックが分かったらすぐに解答を送ってほしい。正解者にはダイレクトプラスを発行させていただく。なお、正解は来月のこのコーナーで発表する。それでは頭をやわらかくして、今月のテーマ「IE4.0のダイナミックHTML」にチャレンジ!

「HTMLパズルに挑戦しよう」宛先

正解が分かった人も、分からなかった人も、ご意見、ご感想など何でもOK、次の宛先にメールしよう。用件の欄には必ず
HTML TIPS & TRICKS
の1行を忘れずに。あなたの挑戦を待つ!

✉ ip-cdrom@impress.co.jp

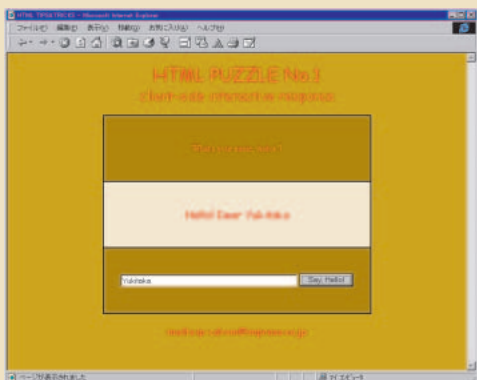
QUESTION 1 マウスカursorを自在に変える!



左の図を見てほしい。紙面では分かりにくいのだが、実をいうと文字の上にカーソルを乗せると、カーソルの形がいろいろと変わるのだ。これは別にブラウザがファイルのロードなどの動きをしているから変わっているというわけではない。なんとIE4.0では、ページ作者が読者のマウスカursorの形を指定することができるのだ。この文字の上では砂時計、あの文字の上では十字矢印、その文字の上では他の形のカーソル……という具合に変化させることができる。まさにダイナミックカーソルだ。カーソルを文字の上に持っていくと変化する。そんなHTMLを書いてほしい。このパズルを解いたら独創的な使い方を考えてみよう。

ヒント IEのダイナミックHTMLはスタイルシートを使っている……

QUESTION 2 入力した文字を表示させる!



ウェブページの読者をページ作りに参加させる、つまり読者の入力した文字をページに反映させるということは、CGIを使えば簡単にできる。しかしこの方法ではサーバーにアクセスしなければならず、通信が終わるまで時間がかかってしまう。だがダイナミックHTMLを使えば、サーバーとのやりとりなしに読者のメッセージをページに取り込むことができるのだ。左の図は、読者の名前を聞いてあいさつをするというインタラクティブなページだ。これを発展させれば簡単な会話ページが作れるぞ。フォームに入力したメッセージを使って、CGIなしでページを書き換える、そんなページを作るのが第2問だ。アイデアに富んだ面白い解答を送ってほしい。

ヒント Javaスクリプトと組み合わせると……



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp